

西山町の小学校で出前授業・ダム見学を実施

柏崎周辺農業水利事業所

平成29年6月8日(木)、13日(火)に柏崎市西山町にある小学校(内郷小学校3・4年生(15名)と二田小学校4年生(30名))を対象に出前授業を行い、6月21日(水)には両校合同で後谷ダムにて動植物の観察会を行いました。

【出前授業】

両校では、総合学習の中で地域の自然環境や水の源について学習してきており、今回の出前授業は、小学校の近くを流れている用水路や別山川の水がどこからきているのかをテーマとしました。

授業では、学校の近くにある用水路や別山川を上流に向かってたどりながら、途中にある施設ごとにそれらの役割を説明しました。驚いたことに、両校とも近くの頭首工を見たことを憶えている児童が多くいました。しかし、残念なことにその役割を知っている児童はいません。そこで、頭首工は川の水を堰止めて水路に取水し、田んぼへ配水するための施設だと説明すると、とても深く納得した様子でした。

冬の水を貯めるための施設としてため池やダムを紹介した後、西山町にある後谷ダムは、田んぼや畑に水を送るために水を貯めていることを説明すると、「どのように造ったのか。」という質問から「これを考えて造った人は天才!」、「現在造っているところも見てみたい。」という感想まで様々な声が上がっていました。

また、「ダム工事によって住処のなくなる動植物を移植した。」と伝えると児童はどんな生き物や植物なのだろうかと興味を持った様子で、一生懸命にノートにメモをとっていました。

児童に今回の授業内容をまとめて発表してもらい、最後に、「後谷ダムで動植物の観察会を行いますので、楽しみにしてください。」と伝えると「はい!」と元気な返事をもって、出前授業は終了しました。



内郷小学校 出前授業風景
佐藤先生(本省へ異動済)



二田小学校 出前授業風景
有田先生(まだまだ柏崎)

【後谷ダム観察会】

後谷ダム保全エリア周辺において、動植物の観察会を行いました。後谷ダムでは、ダム建設時に内郷小学校、二田小学校の協力を得て、水没地域から保全エリアへ動植物を移植しており、ダム完成後も、移植した動植物の生息状況を確認するためのモニタリング活動を毎年続けています。

はじめに、後谷ダムを見学しました。農業で使うための水を貯めているダムで、土や石でできていること、ダムができる前は湖の底に小さな小川が流れていたこと、土地改良区が管理していることで安定した水の供給ができていてこと等を説明し、児童たちも納得の表情でした。

続いて、移植した保全エリアの希少種の生息状況を調査しました。保全エリアでの調査の結果、綺麗に花が咲いたノハナショウブの群生の他、モリアオガエルの卵塊が観察できました。あいにくの天候で湿原に濁りがあり、池内にメダカとヒツジグサの姿は見えませんが、事前に捕獲したメダカの他、ヨシノボリ、タモロコ、ギンブナ等いることが分かりました。また、子供達はモミジイチゴやコウゾの実を食べつつ、色々な植物を探していました。

最後に、保全区域周辺の水の水質調査を測定しました。児童らはダム湖、市街地の水、味噌汁、ミネラルウォーター4種類の水を使ったCOD（水質を測る代表的な指標）の簡易パックテストに挑戦しました。パックテストの結果、「ダム湖の水は見た目ほど汚くない数字が出た」「味噌汁が一番汚れているのに驚いた」といった意見があり、水環境の大切さについて、考えるきっかけとなったようでした。

最後にダムの必要性と、ダムを一時管理していく必要性について説明させて頂き、最後は「後谷ダム万歳」の掛け声のもと、万歳三唱で締め、御満悦で帰路へとつきました。

農林水産省では、環境との調和に配慮した事業実施が進めており、当事業においても、後谷ダム建設における動植物の保全等を行ってきたところです。移植や保全エリアの整備後も、動植物の生息環境を維持し保全していくために、地域の理解と協力をいただきながら、今後とも当事業所ではこのような活動を続けていきたいと考えています。



堤体天端の上からダムを見学しました

池内にメダカとヒツジグサの姿は見え



生き物たちは元気に暮らしているかな？



未来の科学者たちによる水質試験中